

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>

懐かしい児童雑誌の世界へ

南吉記念館では十二月二十日(日)まで、企画展「児童雑誌『カシコイ小学生』に集った作家と新美南吉」を開催しています。その展示内容と魅力についてご紹介します。

戦 前の雑誌『カシコイ一年小学生』『カシコイ二年小学生』は、東京神田神保町にあった精文館が、昭和七年末から十年頃まで刊行し

ていました。同誌には当時東京外国語学校に通っていた南吉の作品が掲載されていました。が、浜田広介、北原白秋、小川未明、坪田譲治、鈴木寿雄、中島菊夫など、各分野で活躍した人たちも数多く名を連ねていました。

また、今回は雑誌だけでなく、『カシコイ小学生』の挿絵原画も展示しています。これは平成三十年に精文館の関係者遺族宅で発見されたもので、描かれてから八十年以上が経っているとは思えないほど色鮮やかです。この機会に、懐かしい童話と童画の世界を、ぜひお楽しみください。

企画展ではそんな『カシコイ小学生』と南吉の関りを紹介するとともに、同誌に集った作家・画家たちにも焦点をあてています。彼ら一人一人を紹介するパネルや、記念館が収蔵している『カシコイ小学生』二十七冊をすべて展示していますので、同誌がどのような雑誌であったか、隔々まで知ることができるでしょう。

また、今回は雑誌だけでなく、『カシコイ小学生』の挿絵原画も展示しています。これは平成三十年に精文館の関係者遺族宅で発見されたもので、描かれてから八十年以上が経っているとは思えないほど色鮮やかです。この機会に、懐かしい童話と童画の世界を、ぜひお楽しみください。

企画展会場に置かれた感想ノートから、いくつか声を紹介します。

・当時の子ども達には教養を深める本で、とてもいい雑誌だと思いました。
・カシコイ一年・二年のさし絵すてきですね。特に鈴木寿雄さんの絵にひかれました。現代の感覚に似た美意識だと思えます。色づかい、繊細な描写、見事です。
・昔の雑誌の原画を初めて見ました。とてもきれいな色で驚き感動しました。また、原稿と雑誌の本文比較、解説も興味深く拝見させていただきました。

・新美南吉さんについて新たな視点から学ぶことができ、興味深かったです。国語の教師をしているので、今日得た気づきを授業に活かしていきます。

＊ 本展の観覧料は二二〇円です。中学生以下無料。学芸員によるミュージアムトークもあります。(詳しくは六頁のお知らせへ)



「ごんの秋まつり」中止に



南吉記念館の北を流れる矢勝川には、毎年三百万本もの彼岸花が咲きます。これに合わせて、例年九月下旬から十月初旬にかけて「ごんの秋まつり」を開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため中止としました。各種イベントを行わず、臨時駐車場や周遊バスなども開設しませんでした。

しかし、秋まつりは中止となっても花は咲きます。毎年、この時期だけで十万人を超える観光客が訪れ、バスも過密状態になるため、イベントの中止に加えて「今年はお花見だけのご来館はご遠慮ください」とも広報しました。

矢勝川の彼岸花は、年によって咲き具合や見頃が異なります。今年は九月二十五日（金）から二十七日（日）頃が見頃となりました。ただ、その次の週になっても花がたくさん残っていたり、開花したばかりの場所があったりと、比較的長く花を見ることができ



ました。雨が少なく、台風も直撃せず、コロナの影響さえなければ、今年は彼岸花を見るのにとっても良い年になったのではないのでしょうか。

ピーク時には客足が増えましたが、それでも全体で見ると、今年は例年の半分ほどに人出を抑えることができました。お花見を控えてくださった皆様、本当にありがとうございます。

新美南吉顕彰会のHPでは、年ごとに彼岸花の咲き具合を写真付きでまとめているので、よろしければご覧ください。

今こそ読みたい、南吉の言葉

南吉の魅力を再発見し、半田市のPRにつなげようと、半田市観光協会が愛知県から委託を受けて、「南吉の言葉」をテーマにポスターとしおりを作成しました。

南吉のふるさと・半田市は、古くから酒や酢などの醸造業が盛んなまちでした。かつて廻船が通った半田運河には、今も黒壁の蔵が立ち並んでいます。春には各地区で祭礼が行われ、五年に一度の山車祭りでは市内の山車三十一輛が一斉に集まり、まちを祭りの空気に染め上げます。里山の自然、祭礼の風景、湊の景色……半田には今もまだ、南吉が作品に書き込んだ世界が残されています。

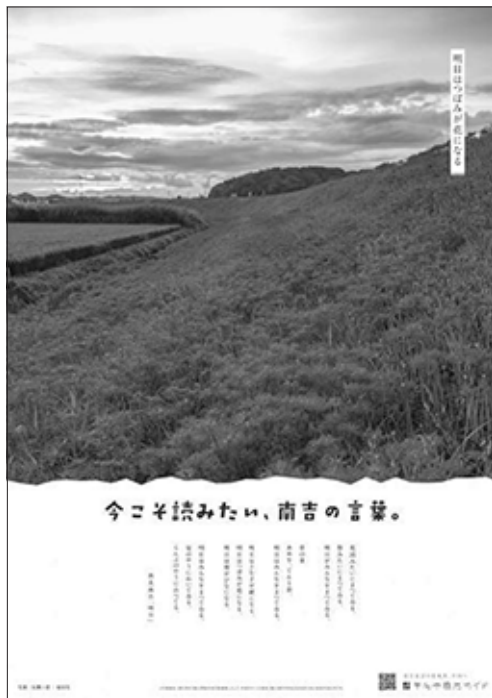
今回のポスターとしおりは、そんな「ふるさと」半田と南吉の魅力をアピールするために作成されました。ポスターには『今こそ読みたい、南吉の言葉』というフレーズが銘打たれ、南吉作品に出てくる言葉とそれに合った半田の景色が使われています。県内の書店と観光施設約四十か所に配布し、掲示をしてもらう予定で、これをきっかけに「まだこんな素敵な風景があるんだ」「このお話、懐

かしいな」と思ってもらい、南吉にもう一度ふれる機会を作ることがねらいです。ポスターには種類があり、期間中に何度か張り替えもしていくそうです。

また、しおりは誰でも手に取ることができ、記念館入館料の割引券がついています。半田市観光協会のHP (<https://www.handakankou.com/>) で詳しい配布場所が掲載されますので、興味のある方はそちらをご確認下さい。

新型コロナウイルスの流行はいまだ収束の気配を見せず、コロナ下での制限された暮らしが半年以上続いています。そんな生活の中だからこそ、一度立ち止まって「南吉の言葉」を読んでもれば、以前とは違う感じ方で再び南吉に出会えるのではないのでしょうか。

このキャンペーンは十一月から令和三年一月末まで開催する予定です。



ベラルーシからとどいた「明日」

十月五日（月）、東欧のベラルーシ共和国にある日本文化情報センターの代表・辰巳雅子さんから、ベラルーシの方々が南吉の詩「明日」を朗読する動画がとどけられました。

南吉記念館では今年五月から、「みんな」で『明日』をとどけよう！と題して、コロナ下で不安を抱えている方々を励ますために、南吉の詩「明日」を朗読してSNSで発信してもらおうという企画を始めました。今回の動画は、その企画に参加するために送られて来たものです。

動画では、日本文化情報センターの日本語教室に通う生徒のみなさんと、子どもクラブ「お日さまの本」の子どもたちが、日本語で



「明日」を朗読しています（左上写真）。始めと終わりの挨拶も日本語ですが、辰巳さんが訳したベラルーシ語の「明日」の朗読を、ロシア語の手話に合わせる場面もあり、日本とベラルーシ、どちらの方でも理解できる内容になっています。

動画の撮影場所として使用された岩の博物館公園は、文化センターの前にあります。上から見ると地図上のベラルーシの形になっているというユニークな公園で、自分の出身地を表す岩の前で朗読をする参加者もいたのだとか。ほかに、ベラルーシのシンボルである矢車菊の造花や「祭」と書かれた団扇が出てくるなど、随所に楽しい工夫が凝らされています。この動画はYouTubeで公開されていますので、ぜひご覧ください。「南吉記念館 明日」で検索し、「明日をとどける」のページに入っ

ていただと、動画へのリンクがあります。

ベラルーシは今、コロナの流行だけでなく、大統領選挙後の民主化運動で混乱の最中にあり、そんな中で南吉の「明日」を朗読してとどけてくれました。辰巳さんはこのことについて、「ベラルーシの政治・経済は全く先行きが見えず、日本語学習者の生徒たちにとって、気持ちが前向きになれる詩を読んだこと、そしてベラルーシ人に自分の日本語を通してメッセージを発信できたことは、とても大切な経験になったと思います」と話していました。参加されたみなさん、本当にありがとうございました。

南吉記念館では十一月十五日（日）まで、「ベラルーシの子どもたちが描いた南吉感想画展」を開催しています。誰でも無料で見られる展示ですので、お気軽に足をお運びください。

「ごんぐラス」登場！

十月から半田市のふるさと納税の返礼品として、新しく「ごんぎつね」をモチーフにしたグラスが登場しました。

今回誕生した「ごん」のグラスは普通のグラスではありません。ダブルウォールグラスといって、グラスの中にもう一つ、キツネの形をしたグラスがすっぽり入ってしまっているような見た目をしています（下写真）。ダブルウォールグラスは台湾のブランド「ゲツドグラス」の商品ですが、半田市に本社を置く「アイワ工業」が日本での代理販売を務めています。そこで、同社が半田市と企画して、「ごん」のダブルウォールグラスを考案しました。

可愛らしい見た目でそのままインテリアにもなりそうですが、耐熱ガラスを使用しているため、熱い飲み物でも注ぐことができるのだとか。何を入れるかによって「ごん」の毛色は変幻自在に変わります。

「ごんぎつね」をモチーフに選んだのは、この作品が世代を越えて読み継がれ



ているからだそうです。グラスを通して、会話や笑顔が増えることが一つの目標だったと言います。

グラスは限定五百個の製造で、半分は半田市のふるさと納税の返礼品として、JTBふるさと納税ポータルサイト「ふるぽ」に登録されています。もう半分はグッドグラスジャパン公式HPにて販売予約を受け付けていますので、直接購入を希望される方はそちらを覗いてみてください。発送はどちらも十一月月上旬頃を予定しています。

第32回 新美南吉童話賞 審査中

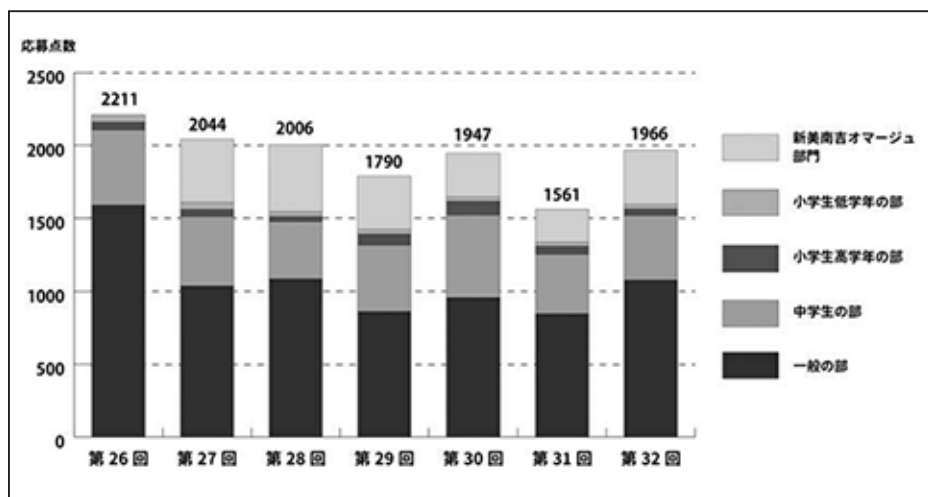
九月十五日（火）、第三十二回新美南吉童話賞が締め切られました。今年の応募点数は一九六六点です。昨年の一五六一点から大幅に増え、ほとんどの部で増加となりました。新型コロナウイルスの影響により、学校からの応募数が少なくなるのではないかと懸念していましたが、ステイホームで筆を執る方が増えたのでしょうか。

新美南吉童話賞には「自由創作部門」と「新美南吉オマージュ部門」があります。これまでオマージュ部門では、課題作品として設定した南吉の作品をテーマに新たな童話を創作してもらっていました。今年から南吉の童話・小説・戯曲であれば何を対象としてもよいことにしました。すると、今までは圧倒的に「ごんぎつね」を選ぶ方が多かったのですが、今年は「ごんぎつね」のオマージュ作品八十六点に対し、「でんでんむしのかなしみ」の

オマージュ作品が九十四点届くという結果になりました。「でんでんむしのかなしみ」は、自分の殻の中にかなしみが詰まっていることに気づいたでんでんむしが、お友達

童話賞は、十月十八日（日）に一次審査会が行われ、このあと二次審査会を経て受賞作が決まります。一次通過作品を含め、全体発表は十一月下旬頃の予定です。

を尋ねていくうちに、かなしみは誰もが持っているもので「わたしはわたしのかなしみをこらえていかなきゃならない」と結ぶとても短いお話です。コロナ下の時代にあって、その内容に共感された方が多かったのかもしれない。第三十二回新美南吉



▲ 新美南吉童話賞への応募点数の推移（第26回～32回）

心に刻む 南吉の風景

日本テレビの番組「心に刻む風景」で南吉が取り上げられ、故郷や下宿先などが五回にわたって紹介されました。

「心に刻む風景」は、歴史に名を残す人物のふるさとや活躍の舞台を紹介する番組です。毎週水曜日放送で、今回は九月二十三日（水）～十月二十一日（水）



ドローンを飛ばすこともありました。

ほぼ全国で放送されましたので、何気なくテレビをつけたら流れていたという方もいるのではないのでしょうか。番組HPではバックナンバーを公開しています。映像を見ることはできませんが、写真と内容がダイジェストで紹介されています。

番組は各回五分足らずの短い内容ですが、どのスポットでもスタッフが入念に撮影していききました。八月二日（日）に南吉の生家にカメラが入った際は、半日以上ロケが行われていたほどです（右下写真）。半田の上空映像を映すために

ぜひこれを機会に、南吉ゆかりの地や作品の舞台を訪ねて、半田までお越しください。

#南吉詩綴、はじめました

九月八日（火）から南吉記念館公式ツイッターで、南吉の詩を不定期で紹介する企画をスタートさせました。

新美南吉は童話作家として有名ですが、実は数多くの童謡・詩も残しています。そこで詩人南吉を広くアピールするため、SNSの発信力を生かして、南吉の詩をツイッターで掲載する企画を始めました。

南吉は中学時代から熱心に童謡を創作しており、雑誌『兎の耳』『緑草』『愛踊』『少年倶楽部』、そして復刊した『赤い鳥』などへ盛んに投稿していました。特に『赤い鳥』では作品が特選に選ばれることもあり、さらに、安城高等女学校に教師として赴任してか

これまでツイッターで取り上げた詩は「蜻蛉」「線香花火」「秋陽」「夕方河原」「秋ま昼」「月の角笛」「無題」「道の地蔵に」「少女ぶり」「初冬」の八編です。執筆年の順ではなく、その時々、季節に合った詩を楽しんでもらおうと選んでいます。中には一ツイー卜百二十文字の制限を超える作品もあるため、冒頭だけを書き、全文が入った画像を掲載しているものもあります。いずれも記念館公式ツイッターか、ハッシュタグ「#南吉詩綴」で検索していただければ見られますので、どうぞ南吉の詩の世界を心ゆくまでお楽しみください。



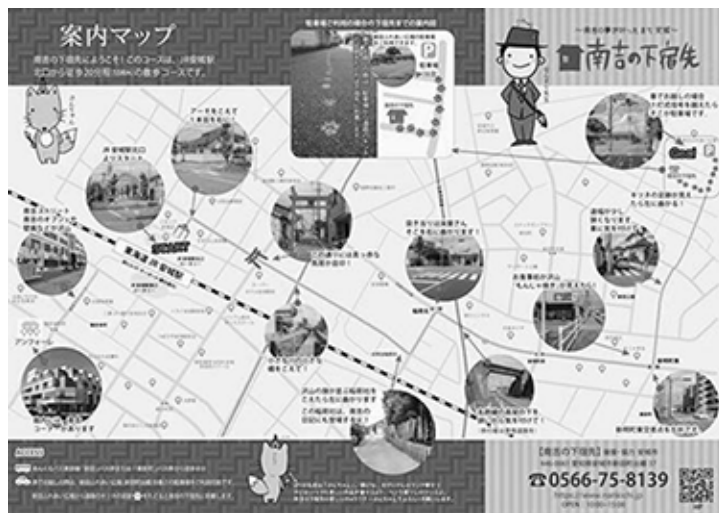
南吉の下宿先を紹介する ポスター&パンフレットができました！

南吉は昭和十三年から安城高等女学校（現安城高校）に教師として赴任し、翌年四月から現在の安城市新田町出郷にある大見家で下宿を始めました。三年半

の下宿生活の中で、南吉は「おじいさんのランプ」「牛をつないだ椿の木」「花のき村と盗人たち」など、数多くの名作を生み出しています。その下宿先は、平成二十四年に大見家の現当主である大見博昭さんが安城市の支援も得て修復し、当時の姿で復元・公開されています。

今回、そんな南吉の下宿先を紹介するポスターとパンフレットが出来ました。制作したのは大見博昭さんです。下宿先では普段から朗読会などが催されていますが、今年は新型コロナウイルスの影響で何もない期間が続いたことから、「かねがね下宿までの

詳細な地図が欲しいと思っていたので、これをきっかけに念願だった下宿のPRポスターとパンフレットを作ってみよう」と思われた



も親しみを覚えて欲しいと、新しい下宿先のイメージキャラクター「なんきち先生」と「ぶんちゃん」の姿も随所に見られます。このキャラクターは安城市アンフォーレ課の職員が描いてくれたのだとか。制作費はすべて大見さんの自費です。

ポスターとパンフレットはJR安城駅をはじめ、安城市内の観光案内所、公民館などに配布され、学校にも配る予定だそうです。大見さんは「見学に来てくれた小学校にも渡したい」と話していました。南吉記念館でもポスターの掲示とパンフレットの配布をしています。

のだそう。パンフレットは表面がJR安城駅から下宿までの地図になっており、裏面に南吉と下宿先の紹介が載っています。文学が苦手な方に

たでも無料で見学できますが、住宅街にある個人の建物ですので、午前10時～午後三時までにご見学ください。（TEL 0566-75-8139）

記念館からのお知らせ

企画展「児童雑誌『カシコイ小学生』に集った作家と新美南吉」

会期 12月20日(日)まで
場所 記念館展示室
※詳細は表紙記事へ

【企画展関連イベント】
ミュージアムトーク

学芸員が企画展会場で展示解説をします。

日時 11月8日(日)、23日(祝・月)、12月13日(日)
／各回13時30分～14時
※参加無料ですが高校生以上は展示室観覧料(220円)が必要です

ベラルーシの子どもたちが描いた南吉感想画展

東欧のベラルーシ共和国の子どもたちが、南吉童話を読んで描いた十六枚の読書感想画を展示します。

会期 11月15日(日)まで
場所 記念館エントランス
観覧料 無料
※11月20日(金)から半田市市民交流センターで同様の展示をします

ガリ版体験

南吉さんも使ったガリ版印刷を体験してみよう。

日時 11月21日(土)

①10時～11時30分
②13時30分～15時

場所 記念館工作室

定員 各回10名

対象 どなたでも(小学3年生以下は保護者も参加)

参加費 2000円

申込み 南吉記念館まで

※1件の申込みは3名まで
※当日は汚れても良い服装で参加してください

※感染対策で、付き添いのみの方は入室できません

えと人形に絵付けをしよう

来年の干支は丑です。半田市に江戸時代から続く乙川人形を使い、素焼きの人形に絵付けをします。

日時 12月5日(土)、6日(日)

午前の部 10時～11時30分

午後の部 13時30分～15時

場所 記念館工作室

対象 どなたでも

定員 各回12名(先着順)

参加費 5000円(1人1体)

申込み 11月7日(土)9時30分から電話又は窓口へ



※1件の申込みは4名まで
※感染対策で、付き添いのみの方は入室できません

「手袋を買いに」の日

12月26日は「手袋を買いに」が書かれた日です。受付で白銅貨をもらって、館内のショップで『このおてにちようどいい手袋ください』と言って渡すと、プレゼントがもらえます。

期間 12月19日(土)

～28日(月)

時間 10時30分～16時30分

場所 記念館受付、カフェ&ショップ「ごんの贈り物」

対象 中学生以下(各日先着50名まで)

榊原澄香(すみこ)ペーパーアート展

南吉童話を題材にペーパーアート作品を制作されている榊原澄香さんの作品展です。

会期 12月26日(土)

～4月11日(日)

場所 記念館展示室

※高校生以上は展示室観覧料(2200円)が必要です

以上の事業は新型コロナウイルスの動向で全て変更になる場合がございます。問合せ・申込みは新美南吉記念館まで。
TEL 0569(26)4888

日誌抄・

八月(葉月)

▼1日 ガイドボランティア例会
▼2日 「ベラルーシの子どもたちが描いた南吉感想画展」終了。会期中来館者数2592人
▼7日 「まん／GONTH LITTLE FOX」ダイジェスト展始まる(～10月15日)。於記念館エントランス
▼13日 「原口さんに似顔

絵を描いてもらおう。56人参加
▼23日 「童話創作講座」第2回。12人参加

九月(長月)

▼4日 毎日新聞(関西版)の「舞台をゆく」で南吉と記念館などが取り上げられる
▼13日 「原口侑千・ごんのかわら版4コマ漫画展」終了。会期中観覧者数4008人
▼15日 第32回新美南吉童話賞、作品募集締切。応募総数1966点
▼18日 乙川東小学校で出前授業。78人参加
▼21日 ミュージアムトーク。10人参加
▼23日 日本テレビ「心に刻む風景」、南吉特集第1回放送
▼25日 さくら小学校で出前授業。69人参加
▼30日 岩滑小学校で出前授業。76人参加

〈11月の休館日〉

2日(月)、9日(月)、10日(火)、16日(月)、24日(火)、30日(月)
〈12月・年末年始の休館日〉
7日(月)、8日(火)、14日(月)、21日(月)、29日(火)～令和3年1月3日(日)

